

小学校高学年

～私たちにできること
（自助について）～
発問計画

7、8 時限用

発問計画・学習教材

4. 私たちにできること(自助について) ①

本時のねらい（目標）

地域のハザードマップで、自分の家や近くの避難所の位置を確認する活動を通して、水害が発生した場合の自分たちの行動に関心をもつとともに、自分たちの命や生活を守るための活動（自助）について、公助・共助との関わりを考えながら、どのようなことが出来るかを考える。

※指導計画の「-----」は、予想される児童の発言（児童に伝えたい発言）を示す。

流れ	発問計画	指導上のポイント	教材解説（◎は補助教材）
導入 (10 分)	1. 台風が発生した時、避難に関する情報を得る方法、どこに避難するかについて話し合う。 （資料1 ハザードマップを提示する） 発問： 川の水があふれて洪水が起こると、わたしたちの地域はどうなってしまうのでしょうか？ ・校区の半分くらいが水に浸かってしまう。 ・川の近くは、特に水深が深く危険である。 ・水が溢れる前に、安全な場所へ逃げないといけない。 ・川と反対の方向へ逃げれば良いのではないかなど <学習の課題> 「洪水から命を守るために、わたしたちに出来ることはなんだろう」	・ハザードマップの見方について解説し、洪水が発生した時に、校区がどのような状況になるかを考えさせる。 ・児童の意見をまとめ、課題に繋げる。	【資料1】ハザードマップ ※市町村のホームページ内の「洪水ハザードマップ」や、ハザードマップポータルサイト https://disaportal.gsi.go.jp/ などで、地域のマップを確認ください。 【参考】 「ハザードマップについて」 ・ハザードマップには、洪水・土砂災害・津波など種類があります。 ・ハザードマップに掲載されている浸水範囲は、浸水想定区域図が公表されている河川(法律で決められた河川や国・県・市が特別に必要と判断した河川で、浸水する範囲などをシミュレーションしたもの)のみを対象としています。小さな水路などが溢れた場合やハザードマップ以外の範囲が浸水することもあります。 ・ハザードマップは複数の浸水想定範囲を重ね合わせて、最大となる浸水深を示している場合もあります。 ・浸水想定区域図が更新された後、ハザードマップも更新されますが、その時期は地域によって異なります。市町のホームページなどで最新の情報を確認する必要があります。
展開 前段 (25 分)	2. ハザードマップを使って、家の周りの危険な箇所について調べる。 ※ハザードマップ(可能であれば学区内を拡大印刷したもの)をグループ毎に配布する。	・資料を根拠に意見を話す児童を価値付ける。 ・児童から出た意見を整理し、板書にまとめる。	

4. 私たちにできること(自助について) ②

本時のねらい（目標）

地域のハザードマップで、自分の家や近くの避難所の位置を確認する活動を通して、水害が発生した場合の自分たちの行動に関心をもつとともに、自分たちの命や生活を守るための活動（自助）について、公助・共助との関わりを考えながら、どのようなことが出来るかを考える。

※指導計画の「-----」は、予想される児童の発言（児童に伝えたい発言）を示す。

流れ	発問計画	指導上のポイント	教材解説（◎は補助教材）
展開 中段 (続き) (15 分)	※グループワーク： ・台風が発生してから川が氾濫するまでの行動について、具体的に何をするのかをグループで話し合い、ワークシートにまとめる (ワークシート：グループで1枚使用する場合は大判、個々人で1枚使用する場合はA4サイズ)		ワークシート 
展開 後段 (25 分)	発問： 水害に備えるには、事前に準備することが大切です。自分や家族の命を守るために、水害に備えてあらかじめ何をしたらよいでしょう？ 【事前の準備】 ・危険な場所や避難場所、避難ルートを確認しておく。 ・非常時の持ち出し品を準備する。 ・家族との連絡方法を決めておく。 ・水害時に地域の人と協力することを考える。 ・学校や地域の避難訓練に参加する。 【情報の確認】 ・気象情報 ・避難情報の発令状況の確認（高齢者等避難、避難指示） ・被害や事故の情報 【避難する】 ・服装や持ち物などの準備をする。 ・近所のお年寄りに声を掛けて、一緒に避難する。 ・周りの人と協力して行動する。 ・避難所に着いたら、小さい子の遊び相手になるなど、自分にできることを手伝う。 など		
終末 (5 分)	4. グループで話し合ったことを全体で交流し、学習のまとめをする。	・今回学習したことを、これからの生活にどのように活かしたいか問いかける。 ・児童から出た意見を整理し、話し合いの結果をまとめる。	

流れ	発問計画	指導上のポイント	教材解説（◎は補助教材）
	学習のまとめ： ・水害から命を守るためには、事前の準備が大切だということが分かった。 ・自分だけでなく、周囲の人と協力することが大切である。 ・家に帰って、洪水が起こりそうなときにどうするか、家族で話し合おうと思う。		